

坂 晴紀 (NPO法人「エンカレッジ」理事長)



先日、知人から子犬を譲りたいと連絡があった。家にいる老犬の遊び相手にちょうど良いと思い、もらい受けることにした。やって来たのは足が短く、顔がくしゃくしゃ、今風で言うブサかわいい生後50日の女の子で、名前はまだ無い。性格だけはお利口さんに育てようとしてつけを頑張っているがなかなか言うことを聞いてくれない。おてんぼと言うよりも小さな怪獣で、顔を見るたびにしかってはかりいる。そのたびに反省の日々だ。

話は変わるが、エンカレッジは行政からの委託紹介等により、生活保護世帯の児童に無償の学習支援を行っている。先日も中部のある教室に入りたいと、I君という中学3年生の生徒が、親子で訪ねてきた。しかし、I君はあいさつも受け答えもろまくできず、ガムまでかんでいる。事業を立ち上げた5年前なら、その態度はないだろうと思

## 未来へ いっぽほ

いながら面談していたが、今はそれもつかしい。ガムをかまないなどはもちろん伝えるが、現在は、面談時には多くを求めないようにしている。

I君のような生徒は自分に自信がなく目標がない子が多いからだ。話を聞けば行きたい高校は成績が足りず諦めたのだという。しかし、成績表を見るとこれから頑張れば第1志望にギリギリだが届く数字だ。そこで本人には、何をやれば良いか、先生や教室がどういう協力ができるかをより具体的に話し、受験まで一緒に頑張ろうという思いを伝えた。その時間わずかだが本人の表情が別人のように変わり、しっかりと受け答えができるようになった。今では週3回の授業予定だが、毎日来て頑張っている。I君を見てあらためて思うのは、求めるのではなく与えることの大切さだ。

家に帰るとかわいい怪獣が元気いっぱい暴れている。求めすぎたのかこの子はもう少し時間がかかりそうだ。取りあえず名前を与えよう。

## 求めるより与えよ